

中央大学ボランティアセンター2017年度 年間スケジュール表

実施月 月	学内外イベント	被災地支援ボランティア	多摩地域ボランティア	学内ボランティア	スキルアップ
通年			子ども・福祉・環境・農業・福祉など様々		ボラカフェ(ボランティアについて気軽に話す場)
4月		・被災地支援学生団体ネットワーク活動説明会		・献血	・AED講習会
5月	・ボランティア写真展		・「ひの新選組まつり」(祭り)	・クリーン大作戦・春の陣 ・献血	・公務員になりたい人のためのボランティア講座 ・AED講習会
6月			・「みんなの遊・友ランド」(福祉)	・献血 ・クリーン作戦・ミニッツ	・公務員になりたい人のためのボランティア講座 ・AED講習会
7月		・被災地支援学生団体ネットワーク決起会		・クリーン作戦・ミニッツ	
8月					・災害救援ボランティア講座
8-9月		・夏季ボランティア			
10月	・ボランティア写真展・夏ボラ報告会		・「みんなといっしょの運動会」(福祉) ・「日野市まちづくり市民フェア」(祭り)	・献血 ・クリーン作戦・ミニッツ	・振り返りワークショップ ・AED講習会
11月	・白門祭			・クリーン大作戦・秋の陣 ・献血	・公務員になりたい人のための防災・災害ボランティア講座 ・AED講習会
12月		・冬季ボランティア		・クリーン作戦・ミニッツ	・傾聴講座
1月				・献血 ・クリーン作戦・ミニッツ	
2月	・大学生ボランティア活動展&防災イベント				・ボランティア講座
2-3月		・春季ボランティア			

※ボランティア情報は、公式webページ、C plus、掲示板、メーリングリスト、Facebook、Twitter等でお知らせします。
※なお、企画実施の有無を含め、日程は変更となる場合があります。

皆さんの興味に合わせたスキルアップ講座あります!

ボラカフェ お昼休みにオープン!

ボランティアについて、カフェにいるように気軽に話せる場「ボラカフェ」。お昼休みの時間に行うので、ぜひランチしながらお茶飲みながら、いろんな話をしませんか?



テーマは色々ですが、学生の皆さんが「こんな活動してこんなことを感じた」「これについて皆と話したい!」などなど、この場を使って話題提供したい、話したいという方も大募集しています。お茶と飲み物もあります♪ぜひ一緒にほっこりしませんか?

ボランティア講座 いろいろあります!

「公務員になりたい人のためのボランティア講座」「地域を巡るバスツアー」「振り返りワークショップ」「災害救援ボランティア講座」など、皆さんの興味に合わせた様々な講座を企画しています。



身近なところで気軽にボランティア始めてみよう!

ゴミ拾い活動「中央大学クリーン作戦」の参加者募集

大学構内や周辺のゴミ拾い活動・クリーン作戦。「ゴミを拾うことで目に見えて地域が綺麗になっていく手応えが感じられる」「一緒にゴミを拾うことで仲間との達成感が味わえる」など、楽しさが口コミで広がり、少しずつ仲間が増えていきます。

お隣の明星大学生と協働で実施したり、地域の皆さんと交流しながら実施したり、学年学部、大学や世代を越えた学生や地域の方々の新たな出会いや刺激も魅力のひとつです。

【開催日】年2回(春と秋)実施、不定期で昼休み(クリーン作戦・ミニッツ)にも実施

◎開催日時の情報は、メーリングリストや掲示板、Facebook、Twitterなどでお知らせします。



問合せ先 中央大学ボランティアセンター

場所: 多摩キャンパス6号館地下1階 学生課内 開室時間: 平日9:00~17:00 TEL: 042-674-3487 FAX: 042-674-3469
E-mail: chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp URL: http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/
FB: 中央大学ボランティアセンター URL: https://www.facebook.com/chuovolunteercenter/ Twitter: @ChuoVolunteer



中央大学ボランティアセンター

被災地支援学生団体ネットワーク 紹介冊子

2017

ボランティアとは?

専門のコーディネーターが常駐し、ボランティアをしたい学生のサポートをします。より多くの学生がボランティアを通じて多様な社会と向き合うことを支援していきます。



【被災地 東北】
はまぎくのつぼみ
はまらいんや
面瀬学習支援
チーム女川

【多摩】
チーム防災



【被災地 熊本】
チームくまもと



【後樂園】
りこボラ!

メーリングリストに登録しよう!

学内外のボランティア情報をいち早くお届けします。登録を希望する方は、ボランティアセンターのHPから登録してください。

<http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/candidate/can03/>

※登録するアドレスは、大学からのメール(~@tamajs.chuo-u.ac.jp)が必ず届くように設定してください。



ボランティアと一緒に探そう!

ボランティアセンター窓口にご相談ください。また、サークルでの特技を活かしたい、ボランティアの団体運営に悩んでいる方は、コーディネーターへご連絡ください。

被災地
東北

はまぎくのつぼみ

はまぎく魂は宮古と共に ～つながりの創造～

理念

私たち「はまぎくのつぼみ」は岩手県宮古市を拠点として活動している団体です。今年で震災から6年が経ちました。宮古市では、建物やインフラなどの復興が進む一方で、ソフト面での支援はまだ課題が多く残っています。また、時の流れによって震災の記憶が風化しつつある現状にあります。学生団体であるため、長期間に渡って現地を訪問することは難しいですが、その中で私たちは、メンバー一人ひとりが「自分たちに出来ることは何だろうか」ということを考え、活動を行っています。

昨年東北地方を襲った台風では、宮古市も大変大きな被害を受けました。「はまぎくのつぼみ」からも水害ボランティアとして現地へ向かい、復旧作業のお手伝いを行いました。また、昨年度からは宮古市の復興状況に合わせて、仮設住宅支援から公営住宅支援に活動をシフトしました。昨年の夏は、公営住宅への訪問を行い、現地の方々との交流を深めました。その他にも、学童へ訪問子どもたちと触れ合ったり、学内やホームカミングデーなどで復興支援物産展を企画したり、SNSを通じて宮古市の震災当時の様子や現在の復興状況などの情報発信を行ったりと、一つの枠に収まることなく幅広い活動を行っています。

「はまぎく」の花は宮古市の市の花であり、花言葉は「逆境に立ち向かう」です。度重なる災害による被害にも屈せず、復興へと力強く歩み続けていく宮古のために、ひとりの力はわずかですが、いつか宮古に満開の花が沢山咲くようにという願いを込めて、「はまぎくのつぼみ」メンバー一同、活動を行っています。



災害公営住宅の皆さんとの交流会



福祉施設のイベントで物産展実施



小学校の学童施設を訪問

田老地区「学ぶ防災ツアー」



はまぎくのつぼみメンバー

活動内容

私たちの活動は、現地で行う活動と東京での日々の活動と大きく2つに分けられます。

＜現地での活動＞

- 主に春と夏の2回で活動します。
- 公営住宅でのコミュニティ支援…地域住民の方々との交流（被災地支援からコミュニティ支援に変わりつつあります。）
- 学童保育支援…子ども達の学習支援とふれあい
- 田老「学ぶ防災」…田老地区の防潮堤や、町づくり見学（ガイドの方に案内して頂きます。）

＜東京での活動＞

- 岩手県復興支援物産展…中大生協や、外部商業施設での岩手特産品販売（震災の風化防止、被災地の経済的支援を兼ねて行います。）

◆団体構成

メンバー数	33人（4年生2人、3年生13人、2年生15人）
活動場所	岩手県宮古市、中央大学等
活動時期	夏、冬、春の長期休暇
ミーティング	週1日

◆団体連絡先

E-mail join.hamagiku@gmail.com

Twitter [@chuomiyako](https://twitter.com/chuomiyako)

Facebook <https://m.facebook.com/chuohamagiku/>

代表学生より一言

震災から6年が経ち、東京にいる私たちが被災地の様子を目にするのは少なくなりました。しかしながら、復興にはまだ支援が必要です。被災地のためにできることを共に考え行動してみませんか？

私たちは現地での活動に加え、物産展や写真展といった東京での活動も積極的に行っています。

もちろん、他のサークル等との掛け持ちも可能です。宮古の復興に携わりたい方、ボランティアを経験してみたいと思っている方、ぜひ一緒に活動しましょう！

被災地
東北

はまらいんや

人の復興を目指す「コミュニティ支援」

理念

当団体は活動の理念として以下の2つを掲げています。

- 住民の方々の“今日を生ききる力”となること
- 人と暮らしと地域に焦点を当てた“人間主役のボランティア”であること

この2つの文章を読んだだけで私たちが目的としている活動を理解することは難しいでしょう。しかし、人間には想像し共感する力があります。完全に孤立した状況の中、人は一人で生きていけるでしょうか？病気や障害を抱えたとき、一人で日常生活を営むことが出来るでしょうか？深い悲しみを誰にもわかってもらえない苦しみの中、毎日を楽しむことが出来るでしょうか？

これらの事がどんなに困難で、他の人のサポートを必要とすることであるかは容易に想像がつかないと思います。ただそういった環境を築くことが困難な状況が続いています。震災から6年がたった今、被災地にはまだ苦しみの中にいらっしゃる人が多くいます。

当団体はそのような人々に寄り添いながら、その人の暮らしやその人自身、地域に目を配り、その人らしくいられるコミュニティづくりを目指し今後も活動を続けさせていただきます。



仮設住宅での集合写真



うちわを使っての遊び



夜に行う振り返りミーティング



一軒一軒訪問させていただきます



子どもたちの笑顔が最高のプレゼント

活動内容

当団体は宮城県気仙沼市の面瀬中学校仮設住宅で、お茶会やお宅への戸別訪問を通じてコミュニケーションをとることで、仮設住宅に住む方々同士の新しいコミュニティ形成、維持ができるようサポートする「コミュニティ支援活動」を行ってきました。被災地では復興住宅の建設が進み、私たちがお世話になっている面瀬仮設住宅も解体されます。そのため仮設住宅での当団体の活動は2016年夏で最後としました。復興住宅の建設など、ハード面での復興は進んでいますが、被災者の方一人一人の抱える問題は解決されるわけではなく、むしろ複雑化している部分も多いため、今後は被災者の方々の抱える問題に目を向けながら、学生として・第三者としてどのように関わらなければならないかを考えていこうと思っています。

◆団体構成

メンバー数	16人（4年生3人、3年生7人、2年生4人）
活動場所	宮城県気仙沼市面瀬地区
活動時期	夏、冬、春の長期休暇
ミーティング	週2日

◆団体連絡先

E-mail hamarainya@gmail.com

代表学生より一言

ボランティアは、有志です。「力になりたい。自分に何かできることはないか。」その気持ちが一番大切です。しかし、気持ちがあるだけではだめで、まずは相手のニーズを知るところから、ボランティアははじまります。その個人個人のニーズの裏には、被災された方々の心に負った深い痛みや不安があり、そして震災であらわになっただけでも関わらず見過ごされてきた社会の問題があります。ボランティアを通して生の社会に入り、現場で問題と向き合う。その「生きた学び」は自らを大きく成長させ、大学の中だけで得られない、新たな価値観を育ててくれます。

被災地
東北

面瀬学習支援

共に学び、共に描く、ふるさとの未来図

理念

学校とも家庭とも違う子どもたちのための場を開く

震災によって、子どもたちの過ごす家庭環境、社会環境は大きく変化しました。住み慣れた家を離れたり、それまで家にいた家族が働きにでたり、大通りに頻繁に大きなトラックが走るようになったり…そうした変化に、子どもたちは直接働きかけることはできません。私たちは、学校や家庭のような「教える・育てる」場、友だち付き合いのような「仲間・対等な」場でもない、「お兄さん・お姉さん」のいる場として、どちらにも表しづらいことを受け止める場を目指します。

選択肢を広げて未来の面瀬・気仙沼の担い手を育む

大学生や地域の大人と関わりながら、さまざまな体験を通して、子どもたちが考える、知ることのできる場、成長の場を作ります。

気仙沼の魅力をとともに学び、子どもたちが自らを形作る故郷を学ぶ機会を作ります。地元を知る、学ぶことで、子どもたちが自分自身を確立し、自己の将来について考える土壌を作ることを目指します。

以上のふたつを理念とし、外部から来た大学生としての私たちができることを考え続けます。



宿題やプリントを使っでの学習支援



自治会館は子どもたちがたくさん!



面瀬川は魅力的なものだらけ



移動中も女子トークで盛り上がります



最終日は子どもたちもワクワクするお楽しみ会

活動内容

私たちは気仙沼市面瀬地区の面瀬小学校の児童を対象に、宿題指導と自由遊び、体験型の地域学習をしています。

毎週のミーティング、年三回の事前現地調査、長期休暇に合わせて年三回、一週間程度、現地での活動を行っています。

小学校の先生方や現地で活動する子どものおそび場をつくる団体、地域の大人の方々からたくさんのご協力をいただきながら、子どもたちにとってよりよいあり方を考え、子どもたちの様子や地域の様子、またその変化にあわせ、団体のあり方を日々模索しています。

◆団体構成

メンバー数	27人(4年生4人、3年生10人、2年生9人)
活動場所	宮城県気仙沼市面瀬地区
活動時期	夏、冬、春の各長期休暇に1週間程度現地で活動
ミーティング	毎週1~2日程度

代表学生より一言

面瀬に行くと子どもたちはとても元気で、毎日ただ楽しく過ごしているんじゃないか?と思うかもしれませんが、子どもたちは自分がどう思っているのか?何を求めているのか?明確な言葉にすることができません。だから、私たちに何ができるのか?何をすべきなのか?という問いは、非常に難しく、かつ変化していくものです。この団体の活動は、正解がなくもどかしくなることもありますが、とてもやりがいのあるものだと思います。

◆団体連絡先

E-mail omose.chuo.v@gmail.com

被災地
東北

チーム女川

大好きな女川を伝えたい

理念

◆女川町の人たちが何を必要としているのかを考え、

一緒に復興に向けて活動する

東日本大震災から6年経った現在、宮城県女川町は復興に向けて歩んでいます。私たちは女川町の方にお話を聞き、自分たちに何ができるかを考え女川町の復興に向け共に歩むことを大切にしています。現地での活動時には活動で得たことを東京での活動に反映させるために、明確な目標を持って活動に臨むことを重要としています。

また、学内外に女川町の人たちの思いを伝え、女川町を多くの人に知ってもらうことを活動の主要な目的と考えています。1人1人が自らの意見を持ち、メンバーとの意見の交換を積極的に行い、女川町に関して自分達も理解を深めています。より多くの人に女川町の魅力を発信していくために、女川町での活動だけではなく、東京での活動も頻繁に行っています。さらに、メンバー各々の大学生生活での経験も積極的に現地や学外での活動に生かすことにより、幅広い視野で復興について考えることができるため、そのことも大切にしています。



白門祭にてさんまのつみれ汁の販売



白門祭で販売したさんまのつみれ汁女川の特産



都内でのホタテ焼き



ホームカミングデーでの物産展



スタディーツアー

活動内容

主な活動は、現地に行き町の現状を自分の目で見て、現地の方からお話を伺うことで震災や復興について考え、現地の方と協力して復興に向けて歩むということです。また、東京での活動として、女川町観光協会がお祭りや物産展に出店する際のスタッフ活動や、白門祭での女川の郷土料理の販売を通して女川町をより多くの人に伝える活動を行っています。昨年度は、物産展や名産のさんま・ホタテ焼きを通して、女川町の各産品のPRを行いました。今年度は、さらに東京での活動に力を入れ、様々な人に女川町を発信していきたいと考えています。また、現地での活動として、ヒアリング調査の他に女川町でのイベントや体験活動もしたいと考えています。

◆団体構成

メンバー数	8人(4年生2人、3年生4人、2年生2人)
活動場所	宮城県牡鹿郡女川町
活動時期	夏、春の長期休暇
ミーティング	週1日

◆団体連絡先

E-mail chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp

Facebook https://www.facebook.com/teamonagawa

代表学生より一言

女川町は、東日本大震災により甚大な被害にあいました。あれから町が一丸となって町づくりが進められており、現在も復興は続いています。女川町の「今」を伝え、震災を過去のものとしないうるために、私たちは現地の活動で学んだことを東京での活動に生かし、災害に対する知識を広めていくことが重要であると考えています。そして女川町の人と共に復興に向かって進み、女川町のことを多くの人に伝えたいことを大切にしています。

被災地
熊本

チームくまもと

私たちがくまもとの
為に出来ることを、
いまここから。

理念

平成28年度4月の熊本での大地震以降、私たちは熊本県阿蘇郡西原村や菊池市で活動を行わせていただいています。

震災は人々に多くの喪失を与え、被災地の方々はそれらを抱えたまま生活されています。住み慣れた家や今まででの暮らし、地域での人々のつながりなど失ったものは数え切れません。それらは必ずしも、時間や復興計画が取り戻してくれるものでもありません。

「なぜ東京の学生がわざわざ熊本に行くのか。」

そう疑問に持つ方もいらっしゃる方もいるかもしれません。しかし、それは単なる疑問であって、我々学生が被災地へと行かない理由にはなりません。

私たちは被災地や被災者の方々が抱える問題や課題に対して学生なりに考え、被災地に寄り添った形で、被災地のためにできることを、我々なりに行動に移していきたいと考えています。

活動内容

現地では、避難所や仮設住宅での足湯や傾聴、農業ボランティアを行わせていただきました。加えて、学内で県産品を販売し、収益を阿蘇神社復興のために寄付すると共に、いらしてくださった方に現地の被災状況や我々の活動内容を紹介しました。

我々の活動はまだスタートラインに立ったばかりです。これから私たちにできることを踏まえて団体としての形を明確にしていきます。皆さんも我々とともに活動に参加してみませんか？



足湯で心も体も解きほぐしていきます

学生と一緒に体操も！

皆さんのつぶやく何気ない言葉に耳を傾けます

◆団体構成

メンバー数	7人(4年生4人、3年生3人)
活動場所	熊本県阿蘇郡西原村・菊池市
活動時期	春・夏・冬の長期休暇
ミーティング	週1日

◆団体連絡先

E-mail chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp

多摩

チーム防災

「学生 × 地域 × 防災」で
自助・共助の力を高める

理念

●被災地と多摩地域をつなぐ

チーム防災は、東日本大震災の被災地での活動で学んだことを活かしたいという思いから結成された団体です。その経緯もあり、被災地での活動などを経験し、「防災」という分野に関心を持った学生が所属しています。各々の経験を地域で発揮し、より多くの人へ「防災の大切さ」を伝えていきたいと考えています。

●顔が見える関係を築き、自助・共助の力を高める

学内での活動に加え、地域の防災イベントに多く参加し、地域の幅広い年齢の皆様と活動することを重視しています。それは、地域の皆と学生が顔を合わせることで、災害時に助け合えるような繋がりを構築したいと考えているからです。災害時に、自分の命と大切な人の命を守れるように、参加者の皆様と一緒に防災について学び続けます。

活動内容

日野市内の学校や自治会で、避難所運営ゲーム(災害時の避難所運営を想定し、避難者やイベントに対処するゲーム)やカエルキャラバン(楽しみながら防災の知識を学べるプログラム)などを、地域の皆様と一緒に行ってます。学内では、「BOSAI Cafe」を企画し、学生が気軽に防災について話し合ったり、防災学習ゲームを体験できる機会を作っています。災害時に教職員と学生が連携を取る必要性を感じたことから、「学生 × 教職員合同防災研修」も企画しました。



地図を囲んで地域の危険な場所を知る防災ゲーム「DIG」

子ども向け防災アトラクション「カエルキャラバン」

小学校の防災訓練や授業にもお邪魔します

活動を通して地域の皆様との交流を楽しみます

◆団体構成

メンバー数	7人(4年生1人、3年生2人、2年生1人)
活動場所	東京都日野市
活動時期	学期中、長期休暇中ともに月に2回程度
ミーティング	週1日

◆団体連絡先

E-mail chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp

後楽園

りこボラ!

理系でもボランティアを日常に

理念

「りこボラ!」は「理工(りこう)学部でもボランティアしよう!」の略称から名づけました。理系学生の中ではボランティア活動へ最初から興味を持っている人は少ないかもしれませんが、けれど理系だからこそ、地域や社会の問題に論理的・科学的に取り組み、貢献できることがきっとあるはず。また、ボランティア活動をしたときに得られる気付きや充実感を、自分だけの思い出で終わらせることは勿体ないことであり、人と共有することで、考えをさらに深めることや新たな気付きを獲得することもできます。その気付きは自分の次の行動や活動に繋がるでしょう。そしてまた新たな経験をすることで新たな気付きが得られます。理系ならではの活動を目指し、経験と学びのサイクルを作ること。この考えを胸に、多くの方の支えの元で、活動を続けていきます。

活動内容

私たちの主な活動は以下の4つです。

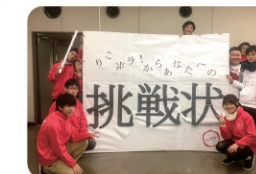
- ボラカフェ…ボランティアで得た経験の発信と共有の場の運営をします。
- クリーン大作戦…ボランティア初心者に参加しやすいゴミ拾いなどを企画します。
- 文京区周辺のボランティア活動と紹介…地域の方や他大学生と関わりながらより良い文京区を創っています。
- ボランティアセンターの学生スタッフとしての役割…多摩にあるボランティアセンターと後楽園キャンパス生の架け橋を務めています。

◆団体連絡先

E-mail chuo.riko.volunteers@gmail.com Twitter @C_RikoVolunteer Facebook www.facebook.com/chuo.rikovola



後楽園キャンパス周辺でのクリーン作戦



白門祭でも防災をテーマに出店



留学生と一緒にキャンパス周辺をキレイに!

◆団体構成

メンバー数	45人(うち6名が運営)(4年生6人、3年生9人、2年生28人)
活動場所	後楽園キャンパス周辺
活動時期	不定期
ミーティング	週1日

大学生が
地域の力に!

地域ボランティアで 地元の魅力を発見しよう!

ボランティアセンターでは、キャンパス周辺地域でのボランティア活動を推進しています。環境保全、農作業をはじめとする活動から、子どもやお年寄り、障がいのある方々との活動など、大学生の力が必要とされるボランティア活動は数多くあります。ぜひ一緒に地域を盛り上げませんか？

★ボランティア情報は、メーリングリストや掲示板、Facebook、Twitter などでお知らせします。



ユギ里山

東京都が指定する「堀之内里山保全地域」で里山の風景を守るべく、農作業のお手伝いをしています。



せせらぎ農園

多世代・様々な方々が好きな時に集って農作業を楽しむ「コミュニティ・ガーデン」で農作業を行います。



大豆プロジェクト

国産大豆を学校給食に提供するため、日野市役所や地域の皆様と一緒に大豆を育てるお手伝いをしています。



落川交流センター

「防災活動を日常に」と、地域コミュニティに根付いた炊き出し訓練を毎月行っている地域づくりの拠点です。

